

2023. 6

(通巻第535号)

発行：
一般社団法人
大阪自治体問題研究所
(発行人：梶 哲教)
〒530-0041 大阪市北区天神橋1-13-15
大阪グリーン会館5F
TEL 06(6354)7220 FAX 06(6354)7228
http://www.oskjichi.or.jp/
定価200円(消費税含む)
会員は会費に含まれます

おおさかの 住民と自治

統一地方選での“維新躍進”を どう見るか?

関西学院大学 富田宏治

4月9日の統一地方選前半戦で、維新は大阪府知事、奈良県知事、大阪市長の座を確保し、41の道府県議選で59議席を124議席へ、16の政令市議選で83議席を136議席へと躍進し、全国に維新旋風が吹き荒れたかのような報道がくり広げられました。

私たちはこの維新躍進をどう受け止めたら良いのでしょうか？ 維新の強さに呆然と立ちすくむことなく、冷静に事実を見つめ、4年後の統一地方選においてこの轍を踏むことのないようただちに反転攻勢の準備に入るべきなのではないでしょうか？

本稿では、とりわけ大阪府下における維新躍進の実態に迫り、反維新勢力に突きつけられた課題を明らかにしたいと思います。

■維新の全国的躍進の実態は

まずは維新の全国的躍進の実態を見てみましょう。まずは道府県議選です。41の道府県で、維新が議席を得たのは17道府県、はじめて議席を獲得したのは、北海道、栃木、群馬、香川、徳島、大分、熊本の各1議席、神奈川の6議席、滋賀と福岡の3議席であり、躍進と言えそうなのは神奈川と福岡ぐらいでし

よう。

一方近畿地方では、滋賀での0→3を含め、京都で3→9、大阪で46→55、兵庫で4→21、奈良で3→14、和歌山で1→3と議席を増やしており、全国で増やした65議席のうち45議席までは近畿での増加です。確かに京都、兵庫、奈良での躍進は際立っていますが、神奈川を除き全国的躍進というのは過大評価でしょう。むしろ維新が大阪から近畿一円に勢力を伸長させ、神奈川や福岡に進出の地歩を築いたと言えるところです。

政令市議選の結果は、選挙の行われた16の政令市の全てで維新が議席を獲得。札幌の0→5、さいたまの0→4、千葉の0→4、横浜の0→8、川崎の1→7、相模原の1→4、新潟の1→2、岡山の0→1、広島の0→3、福岡の3→7、熊本の0→1と大都市圏での一定の躍進は否定できません。ここでも、横浜、川崎、相模原を擁する神奈川県と福岡における維新の議席増に注目すべきです。

問題は京阪神ですが、京都の4→10、大阪の40→46、神戸の11→15と維新が軒並み議席を増やす中、堺で18→18と踏み止まったことは特筆すべきでしょう。

いずれにせよ、維新の全国的躍進という評価にはかなりの誇張があり、近

表1

府知事選	2015	2019	2023
得票数	2,025,387	2,266,103	2,439,444
投票率	45.47%	49.49%	46.98%
投票総数	3,161,296	3,520,303	3,310,341
得票率	64.07%	64.37%	73.69%
有権者数	7,050,366	7,213,730	7,188,665
絶対得票率	28.72%	31.41%	33.93%

大阪市長選	2015	2019	2023
得票数	596,045	660,819	655,802
投票率	50.51%	52.70%	48.33%
投票総数	1,056,466	1,137,170	1,015,816
得票率	56.42%	58.11%	65.54%
有権者数	2,127,593	2,189,852	2,214,966
絶対得票率	28.01%	30.18%	30.05%

畿圏と神奈川で躍進したことは事実ですが、全国の政令市で進出の地歩を築いたと言ったところが実態ではないでしょうか。

■大阪における「躍進」の実態は

維新の本拠地・大阪での「躍進」の実態に目を転じましょう。維新は大阪府知事、大阪市長を圧倒的な大差で獲得し、府議会は前回88議席中の46議席から79議席中の55議席へと議席を伸ばし、議席占有率も52・3%↓69・6%に引き上げま

表2

大阪市内	2019市議	2023市議	堺市内	2019市議	2023市議
北	29,338	30,614	堺	20,354	20,506
都島	24,143	24,966	中	18,167	18,073
福島	16,641	17,231	東	14,300	15,340
此花	13,207	11,746	西	21,605	20,037
中央	20,058	21,686	南	26,073	24,371
西	22,214	23,254	北	22,880	23,915
港	15,846	17,832	美原	7,609	無投票
大正	12,564	11,485	計	130,988	122,242
天王寺	16,784	20,179	美原除く	123,379	122,242
浪速	10,564	10,028			
西淀川	14,632	15,926			
淀川	35,517	38,030			
東淀川	32,191	31,868			
東成	17,300	16,883			
生野	17,631	17,290			
旭	16,273	16,956			
城東	37,072	39,064			
鶴見	22,303	25,285			
阿倍野	23,796	24,669			
住之江	24,680	23,896			
住吉	無投票	32,004			
東住吉	26,564	28,296			
平野	32,717	36,156			
西成	17,240	17,032			
計	499,275	552,376			
住吉除く	499,275	520,372			

した。市議会では前回の83議席中の40議席から81議席中の46議席へと議席を伸ばし、議席占有率は48・2%から56・8%に引き上げて、はじめて過半数を確保しました。他方、堺市議選では、前回、今回ともに18議席とし、議席占有率も37・5%と現状維持に留まりました。反維新勢力にとっては惨憺たる敗北と言わざるを得ず。この敗北に茫然自失の状態に陥っている向きもあるようです。こういう時こそ冷静に事実を見極め、維持「躍進」の実態を検証しておくことが

必要です。表1と表2から見て取れるように、維新は府議選と大阪市議選で大きく議席を増やしましたが、得票数はほぼ前回並みで、ほとんど増やしていません。むしろ大阪市長選、堺市議選では前回より若干減らしてすらいいます。大阪市議選でも15行政区でわずかに増やしたものの8行政区では減らしているのです。府知事選で吉村氏が獲得した横山ノック超えの244万票は、前回227万票を17万票上回りましたが、各社の出口調

査に見られるように自民票と公明票の約6割の取り込みに成功したとすれば、それほど驚くような数字ではありません。

維新は今回の地方選においても、絶対得票率30%をうかがう固定票・組織票を確実に叩き出し、それを各選挙区の複数候補に見事に票割りして、多くの区で議席増を実現しました。現職に少し厚く、新人に少し薄い票割りをを行い、新人の多くを最下位で滑り込ませる巧みな票割りが際立ちました。

議席数と議席占有率の上昇という今回の結果は、府知事、府議会、大阪市長、大阪市会という四つの機関を維新が単独で支配したことを意味し、府議会と大阪市会における熟議のプロセスを無化して、二元代表制を機能不全に至らしめて、維新の「独裁」を可能にしたという意味で極めて深刻な事態です。しかし維新の得票数と絶対得票率を見る限り、大阪における維新「躍進」は一つの幻想に過ぎないと言えそうです。

■反維新勢力の自滅

反維新の側は、絶対得票率30%を誇る維新を凌駕するために必要な「対一」の構図を作り出し、投票率を60%以上に引き上げるといふ鉄則を実現できなかった

たばかりか、投票率を府全体で49・49%↓46・98%、大阪市域で52・70%↓48・33%に引き下げる結果に終わりました。

これは維新が強かったということではなく、維新は前回同様にコンスタントに固定票・組織票を出すことに成功したのに対して、反維新の側が自滅したということを意味しています。

反維新の側の弱点は、4年後に必ず訪れる選挙に対する備えが、あまりにも遅く、候補者の決定が直前となり、さらに府知事選では反維新の候補者一本化に成功しなかった点が挙げられるべきでしょう。

反維新陣営に長年にわたる対立や確執など様々な困難が存在することは否定できません。しかし前回選挙の直後に予定候補者を定め、4年間かけて盤石な支援体制を整えることができれば、今回とは全く違う結果をもたらすことができたはずです。

対一の構図を早くから構築し、盤石な準備を整えば、なかなか投票所に足を運んでもらえない50%の棄権層に自分の投票で大阪が変わるといふ希望の灯をともすことができます。この希望の灯こそが、投票率を引き上げるのです。

逆に9日の投票日に私のある知人がT

witterで呟いたような「どうせまた維新やろ……」という諦めの空気が投票率を引き下げ、固定票・組織票を固め切った維新に勝利を呼び込んだのです。

■堺市長選を機に反転攻勢を

ただ来たる6月4日の堺市長選には十分希望が見いだせます。4年間満を持して準備を進めて来られた野村友昭さん先頭に、堺10000人委員会に結集された市民力が発揮されれば、勝利の可能性は広がります。

堺市議選では、維新は得票を前回より若干減らし、獲得議席数も前回と同じでした。前回市長選における野村さんの12万3771票という得票実績を見れば、勝機はあると言わねばなりません。前回は直前の出馬決定でしたが、今回は4年間の準備期間があったのです。堺市長選の結果は、反維新の側の反転攻勢の狼煙となるでしょう。府下の反維新勢力の力を堺市長選に総結集し、勝利をもぎ取りましょう。

大阪市では堺に見做って、4年後を見据えた反維新戦線の再構築を急がねばなりません。次回統一地方選挙はもう始まっているのです。